

# 公益社団法人 日本天文学会 代議員総会議事録

日時： 2018年6月2日（土曜日） 13時00分～16時30分

場所： 京都大学東京オフィス・大会議室A+B（千代田区丸の内1-5-1新丸の内ビル10階）

出席代議員： 相川、青木、大朝、大向、岡村、河合、柴田（一成）、須藤、林（左絵子）、馬場、望月  
谷本、榎戸、野村、松下、坪井、土居、井岡、北山、梅村、鶴、長田（以上22名、委任状16名）

欠席代議員： 奥村、海部、草野、小久保、田村、常田、戸谷、渡部、鈴木、深川、犬塚、縣、横山、  
百瀬、大内、一本、河野、郷田（以上18名）

伊王野・山下庶務理事、早野・柴田会計理事、寺田年会実行委員長、佐藤事務長、黒岩事務長補佐が出席した。柴田一成会長、土居副会長、林左絵子副会長は代議員を兼任している。

## I. 確認事項など

議事に先立ち、出席代議員が22名、議長委任状が16件、合計38件で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。前回代議員総会（2018年3月15日）の議事録が確認された。

また定款に基づき、以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議長：柴田一成

署名人：柴田一成

## II. 日本天文学会2017年度監査報告（資料3、代理早野）

早野理事より、資料3の監査報告書にもとづき、事業報告書および財務諸表が適正に作成されていることが報告された。

## III. 議題

### III-1. 2017年度事業報告書の承認（資料4、伊王野）

資料4にもとづき事業報告があった。ほぼ例年通りの活動であった。シリーズ現代の天文学の第2版の刊行は全巻が対象で、準備の整った巻から刊行している。また、外部の各賞・研究助成等への推薦については、今後は、その結果も掲載するのが良いとの意見が出された。文言の修正をしたのち、全会一致で承認された。

### III-2. 2017年度決算書の承認（資料5、早野）

資料5-1～2にもとづき決算の報告があった。正味財産期末残高が240万円ほど減少している。正味財産期末残高から計算される遊休財産が当該年度の予算を超えると公益社団法人の資格を失う（社団法人となる）が、日本天文学会はその限度額までに余裕があまりないので、当面、赤字決算を続ける必要があることが説明された。その後、全会一致で承認された。

### III-3. 名誉会員について

長らく用いられてこなかった名誉会員制度を復活させること、その最初の対象者として2名の候補者が提案された。1名については、過去には会員であったが現在は会員ではないこと、“本会に特に功労のあった”という定款の記載に沿った功績が少ないこと、等の問題点が指摘された。今後、名誉会員として推薦する要件を“本会への功労”からより学問的業績を重視する方向に改定することを考えているとの説明があったが、今回は現在のルールに基づくべきであるなどの意見が多かった。もう1名の候補者である海部宣男氏は名誉会員としてふさわしいとして全会一致

で承認された。

#### IV 報告

##### IV-1. 年会アンケートの結果について（資料7、寺田）

現在の分野の分け方、講演数の制限、講演種類の分け方(a, b, c)、講演時間、開催日数については問題と感じている会員が多くないことがわかった。Plenary session を設けることについては、半数程度が賛成しているが、ボトムアップで良いとの意見もある。この結果は、天文月報に記事として公開予定で、会員全体集会でも報告する。年会改革は現理事会の任期中にやりきることは難しそうなので、次期理事会に引き継ぐことになるであろう。

##### IV-2. 理事会（2018年5月19日）の報告（伊王野）

2018年5月19日に開催された理事会の議題および報告事項が報告された。

##### IV-3. 2017年度早川基金報告（資料8、伊王野）

2017年度の早川基金の採択者・支援金額等の報告があった。申請数56件に対し、採択数は21件で、援助金の合計は407万円であった。財源は匿名の個人の寄付によってまかなわれている。

##### IV-4. 学術会議報告（須藤）

学術会議総会で月報記事「安全保障と天文学」の別刷りを配布した。天文学・宇宙物理学分科会の主な議題の一つはキャリアパスで、学位取得後どういう経緯で現在の職に就いているかのアンケートを計画している。日本天文学会のマイページが利用できるとありがたい。もう一つはマスタープランで、3年ごとに大改訂・小改訂を出すのが、今回は大改訂に当たる。2018年9月13日にシンポジウムを開催予定である。

##### IV-5. 学術会議 IAU 分科会報告（資料9、代理岡村）

募集していた IAU 会員の新会員に 43 名の応募があり正会員 40 名、ジュニアメンバー 1 名を推薦した。日本は IAU 役員が少ないので tennet で立候補の呼びかけを行った。3月に福岡で開催された CAP2018 はこれまでで最大の 53 カ国 446 名の参加があった。日本開催予定で提案していた “Astronomy for Equity, Diversity and Inclusion -- a roadmap to action within the framework of IAU centennial anniversary” が IAUS358 として承認された。IAU 創設 100 年記念事業の一環として 2019 年春に東京駅近くで日本天文学会と学術会議とでシンポジウムを開催予定である。

##### IV-6. 「安全保障と天文学」特別セッションについて（資料10、柴田一）

秋季学会中の 9/19 午後に 2 回目となる特別セッション「安全保障と天文学Ⅱ：-声明作成に向けて-」を開催する予定で、講演者の候補者とプログラム案が紹介された。その後のスケジュールとして、12月に日本天文学会主催の議論の場を設け、2019年1月の代議員総会で可能であれば声明を採択したい。個別の会員が最終案に賛否を表明できるチャンスを設けるようにすべきとの意見があり、メールで意見を表明できるようにすることとした。特別セッションではマスコミが取材に来る可能性があるが、マスコミの入場を許す場合は最初に参加者に告知しておく必要がある。

2018年6月2日

議長・署名人：柴田一成 印